

## 1. 略歴

- 1977年3月 東京大学教養学部教養学科学士  
1979年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻修士課程）修士  
1981年9月～1985年7月 ハーヴァード大学 Harvard University（フルブライト全額給費奨学生として留学（スラヴ語スラヴ文学専攻博士課程）  
1984年6月 ハーヴァード大学修士  
1985年3月 東京大学人文科学研究科（露語露文学専攻博士課程）単位取得満期退学  
1984年2月～1985年6月 ハーヴァード大学、ティーチング・アシスタント  
1985年8月～1989年1月 東京大学教養学部、専任講師（ロシア語教室・教養学科ロシア分科）  
1987年10月～1988年9月 ワルシャワ大学東洋学研究所、客員講師（日本語日本文学）  
1989年1月～1994年3月 東京大学教養学部、助教授（ロシア語教室・教養学科表象文化論）  
1994年4月～2004年3月 東京大学文学部、助教授（スラヴ語スラヴ文学）  
2000年5月～11月 ロシア国立人文大学（モスクワ）、客員研究員（国際交流基金フェロー）  
2002年10月～11月 モスクワ大学アジア・アフリカ研究所、客員教授  
2004年4月 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授、現在に至る

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

近現代ロシアおよびポーランド文学、現代日本文学を視野に入れた世界文学論、越境・亡命文学

### b 研究課題

- (1) ロシア・東欧から日本までを視野に入れた形での新たな世界文学論へのアプローチ
- (2) ポスト共産主義時代のロシア東欧文学の総合的研究
- (3) ユーラシア研究という新たな枠組みの中でのロシア東欧文学の位置づけ
- (4) ロシア近代小説研究（特にチャーホフ、ナボコフ）
- (5) 近現代ロシア詩の読解と新しいロシア詩アンソロジーの編纂

### c 主要業績

#### (1) 著書

- （塩川伸明、小松久男、宇山智彦と共編著）、『ユーラシア世界① <東>と<西>』、東京大学出版会、2012.5  
（塩川伸明、小松久男と共編著）、『ユーラシア世界③ 記憶とユートピア』、東京大学出版会、2012.6  
（塩川伸明、小松久男と共編著）、『ユーラシア世界② ディアスポラ論』、東京大学出版会、2012.7  
（塩川伸明、小松久男、松井康浩と共編著）、『ユーラシア世界④ 公共圏と親密圏』、東京大学出版会、2012.9  
（塩川伸明、小松久男と共編著）、『ユーラシア世界⑤ 国家と国際関係』、東京大学出版会、2012.9  
単著、『100分 de 名著 チャーホフ「かもめ」』、NHK出版、2012.9  
単著、『世界文学から／世界文学へ—文芸時評の塊 1993-2011』、作品社、2012.10  
編著、『やっぱり世界は文学できている 対話で学ぶ<世界文学>講義2』、光文社、2013.11、364頁  
共著、加藤有子編『ブルーノ・シュルツの世界』、成文社、2013.11、226頁（177-207頁を分担執筆）  
共著、Joachim Küpper, ed., *Approaches to World Literature*, Berlin: Akademie Verlag, 2013, 180 pp. (147-166頁を分担執筆)  
共著、野崎敏『文学と映画のあいだ』、東京大学出版会、2013.7、214+14頁(107-128頁を分担執筆)  
共著（国際学会 proceedings）、Международная конференция «Диалог армянской, русской и японской культур: Опыт сравнительного анализа」、Yerevan: RAU Publishing House, 141頁、2013.12（99-104頁を分担執筆）

#### (2) 論文

- 「さまよえる境界、捏造された幻影—中（東）欧文学の<地詩学>を求めて」、『思想』、1056、2012.4、292-297頁  
Женщина как метонимическое средство представления мира: жинеские фигуры в «Спекторском» и «Повести» Пастернака」、『Язык, книжность, культура: Новици Петковићу у част: зборник радова』、Special Issue, No.34、2012.4、757-785頁

Харуки против Карамазовых: Влияние "Великой русской литературы" на современную японскую литературу、『ヴェルボンド/Velbond』、1、2012.6、170-189 頁

「タスカー考—「ふさぎの虫」から「せつない」へ」、『文学』、13-4、2012.7、81-96 頁

「亡命詩人、娼婦たち、それともナボコフ—間違えたのは誰か? (『賜物』におけるある誤植をめぐって)」、『れにくさ』 Vol. 5-1、2014.3、100-121 頁

(3) 書評

「絵画・書物・文学——ブルーノ・シュルツを蘇らせるために」(加藤有子『ブルーノ・シュルツ 目から手へ』、水声社)、『表象』、Vol. 7、282-286 頁、2013.3

(4) 解説

「空から人が降ってくる」、円城塔『オブ・ザ・ベースボール』(文春文庫)、195-205 頁、2012.4

「『西洋文学』から『世界文学』へ—事典というにぎやかな祝祭の場で」、桑原武夫監修『西洋文学事典』(ちくま学芸文庫)、581-590 頁、2012.4

「神なき現代人に宛てられた可笑しくも美しい手紙」、鹿島田真希『ゼロの王国』(講談社文庫)、下巻、370-381 頁、2012.6

「精神と物質が直接出会う場へ」、中沢新一『東方的』(講談社学術文庫)、365-376 頁、2012.10

「魂が飛び、虎が憑き、鬼が云う—多和田葉子と言葉の魔法」、多和田葉子『飛魂』(講談社文芸文庫)、238-249 頁、2012.11

「動物学の教授には象を呼べ—大学教師としてのナボコフ」、ウラジーミル・ナボコフ『ナボコフの文学講義』(河出文庫)、下巻、409-429 頁、2013.1

「ダニロ・キシユと山崎佳代子—戦争と、夏草と、世界文学の出会いについて」、ダニロ・キシユ『若き日の哀しみ』山崎佳代子訳(東京創元社、創元ライブラリー)、2013.9、212-221 頁

(5) 学会発表

国際、「Film Adaptations of Stanislaw Lem's Solaris」、2nd Symposium on Comparative Literature: Reform, Reuse and Recycle、神奈川大学、2012.6.16

国際、「Shifting Borders in Contemporary Japanese Literature」、Concept Laboratory "Approaches to World Literature"、ベルリン自由大学、2012.6.26

国際、「Переводя Чехова и Набокова на японский: какие трудности переводчик должен преодолеть」、II Международный конгресс литературных переводчиков、ロシア国立外国文献図書館、2012.9.7

国際、「Русская литература в Японии сегодня: перевод, восприятие и влияние」、ロシア国立外国文献図書館、2012.9.8

国内、The Seagull Goes to the Cosmos, and Haruki Goes to Sakhalin、5th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (Key note speech)、大阪経済法科大学、2013.8.9

国際、Japanese Literature in the Post-3/11 Era、International Conference "Dialogue of Armenian, Russian and Japanese Cultures: The Experience of Comparative Analysis"、ロシア=アルメニア大学(エレヴァン)、2013.9.27

国内、「一」と「多」の間で—外の境界と内なる境界(現代ロシア文学と映画の例に基づいて)、ロシア・東欧学会津田塾大学、2013.10.5

国際、日本文学の「国際化」と新しい越境文学のありかた、International Conference "Japanese Civilization: Tokens and Manifestations"、日本美術技術博物館 "Manggha" (クラクフ)、2013.11.15

国際、The Role of Russian Literature in the Development of Modern Japanese Literature from the 1880's to the 1930's: Some Remarks on its Peculiarities、International Workshop "Russia in East Asia: Imagination, Exchange, Travel, Translation"、コロンビア大学、2014.2.28

(6) 啓蒙

「いまどうして世界文学なの—カーゲーテから池澤夏樹まで」、『文藝』、51-1、30-35 頁、2012.2

「翻訳は世界文学の別名である—現代日本文学が外国語に訳されて何のいいことがあるんだ、と言う人たちのために」、『新潮』、2012年11月号、268-271 頁、2012.11

(7) 監修

(共同監修)『Worth Sharing vol. 1 日本の青春』、国際交流基金、2013.2

(8) 会議主催(チェア他)

国際、「グローバル化時代の世界文学と日本文学—新たなカノンを求めて」、実行委員長、東京大学山上会館、2013.3.3 ~2013.3.4

(9) マスコミ

書評委員、毎日新聞、1995年～（毎年6～8本書評を掲載）

文芸時評、新聞三社連合配信（東京・中日・北海道・西日本新聞）、2004.12～（毎月）

NHK ラジオ「英語で読む村上春樹」（NHK ラジオ第2 放送番組の講師、およびNHK 出版による月刊テキスト執筆）、NHK、2013.4～2014.3

（インタビュー）翻訳大国衰える実力・多言語交流、『読売新聞』、2013.7.4

(10) 翻訳

個人訳、Антон Павлович Чехов、"Чайка"、沼野充義、『かもめ』、集英社（集英社文庫）、2012.8

個人訳、Лев Николаевич Толстой、"Три старца"、沼野充義、『三人の長老』、『こころ』、Vol. 13、82-93 頁、平凡社、2013.6

共訳、アンドレイ・シニャフスキー『ソヴィエト文明の基礎』（平松潤奈、中野幸男、河尾基、奈倉有里と共訳）、みすず書房、416 頁、2013.12

(11) 研究テーマ

文部科学省科学研究費補助金、研究代表者、「グローバル化時代における文化的アイデンティティと新たな世界文学カノンの形成」（Cultural Identity and the Formation of a New Canon of World Literature in the Age of Globalization）基盤研究(B)、2008～2012 年度

文部科学省科学研究費補助金、研究代表者、「越境と変容—グローバル化時代におけるスラヴ・ユーラシア研究の超域的枠組みを求めて」、「Border-crossing and Transfiguration: In Search of a Transdisciplinary Paradigm of Slavic and Eurasian Studies in the Era of Globalization」、2013 年度～（2017 年度までの予定）

### 3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義など

「大江健三郎の最近の長篇小説—古義人三部作と『水死』を中心に—」、中国社会科学院大江文学研究会、中国社会科学院（北京）、2012.3.16

「Харуки против Карамазовых: Влияние «Великой русской литературы»」、中国社会科学院ロシア文学研究部会、中国社会科学院（北京）、2012.3.16

「村上春樹 vs カラマゾフ—現代日本の翻訳文化と世界文学」、シンポジウム「文学と翻訳をめぐって」、岡山大学文学部、2013.3.9

(2) 学会

Japanese Society for Slavic and East European Studies (JSSEES)、理事、1998～

日本ナボコフ協会運営委員、1999～

日本ロシア文学会会長、2009.10～

ロシア東欧学会理事、2000～

ICCEES（国際中東欧研究協議会）2015 年度世界大会共同組織委員長、2011.12～

JCREES（日本ロシア東欧研究連絡協議会）、代表幹事、2013.2～

(3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

セゾン文化財団評議員、1999.4～

東京大学出版会、企画委員、2007.4～

坪内逍遙大賞選考委員、早稲田大学、2007.4～

読売文学賞選考委員、読売新聞社、2005.7～

サントリー学芸賞選考委員、サントリー文化財団、2011.7～